

ホテルなりマンションの一室を訪れる  
美遊さんとイリヤさん。  
それだけの健全絵でござる。



お風呂にお湯をはったり  
テキパキと  
何かしら準備する  
美遊さん。

見たことない枚数の  
諭吉さんを渡され  
テンパる  
イリヤさん。













お風呂沸いたので  
ぬぎぬぎ。  
女の子同士なので健全。

ん？

ぬぎぬぎ

あ...

ん？

ぬぎぬぎ

あ...ん？

ぬぎぬぎ...

あ...ん？

あ...ん？

ん？

ん？

ん？

どことなく  
嬉し恥ずかしな  
美遊さん。

ん？

ん？

ん？

イリヤ  
早く……ッ

ズキ

うう……

ぬん……

ズキ

引き続き脱ぎ脱ぎ。  
美遊さんにガン見  
されながらの脱衣に  
羞恥心全開の  
イリヤさん。

パンツチェックに  
謎の染みで  
さらに赤面。

あれ……?  
私もぬれこ……

ぬん……

ホカ

ホカ

なんぬ……っ。

ズキ

ズキ

ズキ





はははは...C...

〜んんんんん...

エエエ

エエエ

ははは...  
ハハハ...  
ハハハ...

〜んんん...

エエエ

透けスクと黒紐ビキニに  
着替えた2人。  
これから入浴。

折角なので記念に撮影。  
ピースピース。  
ウエーイ。

イリヤのお股...  
またまた...♡

エエエ

エエエ

〜んんん

〜んんん



2人で  
人間スポンジと  
化して御奉仕

うっう...

ぬる

ぬる

はう...

ぬる  
ぬる

ぷり

ぷり

JS柔肌の感覚に  
美遊さんの指遣い、

イリヤさんの  
初々しい反応に  
おじさんもご満悦

ん...

...

ぷり  
ぷり

ぬる  
ぬる







大事なところはお口で綺麗に

ドキ

ドキ

ドキ...

ドキ

ほんとに...  
こんな...

ドン引きながらも  
おちんほから  
視線を逸らせない  
イリヤさん



ちゅ...

ドキ

お綺麗...!!



恥ずかしげながらも  
舌先での念入りに尿道を  
ほじくる美遊さん



れちよ  
れちよ



そんな美遊さんを  
みつめる  
イリヤさんの  
心中は――



美遊...

この手の  
才能にもあふれ  
下品なチユバ音も  
お手の物



罪悪感で  
いっばい

んんん...

.....  
ッ

うっうっ...

意を決した  
イリヤさん

異臭やグロテスクな  
外見にも負けず  
ついにチンタッチ

んんん...

んんん...

んんん...

んんん...

んんん...

んんん...

んんん...

んんん...

幼い薄桃色の舌に  
赤黒く張り詰めた亀頭の  
苦さが伝わり  
いっそう涙目



強い体臭と長時間奉仕による疲労で頭がぼうつとしてきたイリヤさん

美遊さん共々気付けば一心不乱にしゃぶりつき

は

ん

は

ん

は

は

ん

は

ん

ん

ん



人生初めての顔射、  
汚ちんほとは  
また違った味と匂いに  
吐き気を催すイリヤさん

ド  
ロ  
ク

い  
い  
あ  
い

え  
い  
い  
い

い  
つ  
え  
え  
...

ア  
ア  
ア  
...

い  
い  
い  
い  
い  
い  
...

い  
い  
い  
...

い  
い  
い  
い  
...

人  
...



ひと汗流し  
さっぱりしたところで  
いよいよオンザヘッド

震える  
イリヤさんの手を  
そつと握る美遊さん

イリヤさんの胸中に  
暖かいものが生まれる

びん

びん

お

そんな  
ロリ百合な光景に  
感動したおじさん

「じゃあ先に  
美遊ちゃんを滅茶苦茶に  
しちやおうね」  
クズである





.....

ぬーん.....

「安心してね。  
私は痛い事させるのは  
嫌いなんだ」  
とローションを  
搾り出すおじさん

んんん

ゴクッ

ぬーん

その言葉とおり  
おじさんの指遣いは  
艶かしいほど

.....

美遊さんも  
思わず声を  
漏らしてしま  
ほんのり恥ずかしげ

ぬーん

ぬーん



ん...

わっ  
びんびん

あ...♡

ア、ア、ア、ア  
...♡

あ...♡

びんびん

ここで突然  
イリヤさん参戦

あ...♡

お金を受け取って  
いるにも関わらず  
傍観者でいる事を  
嫌ったのか

びんびん

はたまた  
ローション塗れて  
頬を赤くする  
美遊さんの姿に

何か  
感じ入るものが  
あったのか

びんびん

びんびん





おじさんの指遣いと比べれば拙い動きだったが

イリヤさんの指先が美遊さんの柔肌を這う

不思議と美遊さんは熱い吐息を零してしまう

んんん

ズンズン

フワッ

フワッ

フワッ



そこにおじさんの深く熱いバキユームクンニ

いやらしい音が美遊さんの耳を打つ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ



肌と耳と秘所から伝わる刺激が

美遊さんの心と身体を昂ぶらせ

そして――

だ・ナ・メ・ク・ン？  
美遊……

フワッ  
フワッ  
フワッ  
フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ





は...ん...♡

♡...ん♡  
ムハハハ

百合チュー...

んや



は♡  
んや

♡ん♡

んふ♡

ムハハ

唇を押し開き  
舌を絡めあう  
濃厚なレスチュー  
である

♡ん♡

♡...ん♡  
ムハハ

ムハハ



完全にスイツチの  
入ってしまった  
美遊さん

イリヤさんを  
押し倒し  
2人の世界へ  
ダイブ





Y-46  
+6555...♡

♡

♡...9+46...♡

♡

♡...+6555...♡

♡

♡

一心不乱に  
愛撫を続ける  
美遊さん。

そして  
抵抗の言葉を  
あげつつも

身体を走る  
未知の刺激に  
流されていく  
イリヤさん。

♡  
+6555♡



もうこのまま  
JSロリレズもの  
として進めた方が  
良いんじゃないかろうか

そんな  
ふざけた迷いを

美遊♡

♡

♡

♡

♡





アッ!?!  
?!=BB

おじさんの一撃が  
ぶち壊す

キーン  
キーン  
キーン

?!



おじさんさんは  
少し怒っていた

ギキ  
ギキ

あ  
あ

あ  
あ

あ  
あ

目の前で  
繰り広げられた  
JSレズショーも  
悪くはない

かく  
かく

あ  
あ

あ  
あ

あ  
あ

あ  
あ

あ  
あ

美遊ッ!?

大丈夫ッ!?  
美遊ッ!?

あ  
あ

だがおじさん  
金を払ったのだ

普段JSが  
手にする事が  
できない金額を

あ  
あ

あ  
あ

うそッ  
そんな苦しそ  
うなのッ

ちが...うの

にも関わらず  
彼は無視された





いきなり…  
だったから…

おどろいた  
…だ…け

はーい

美遊ッ!?

あー

苦しくは  
ない…けど  
らいじょうぶ  
じゃ…  
ないみたい…

キツ

いやイチモツを  
捻じ込んでも  
なお無視されている

ギツ

ブル

イリヤの  
目の前で…

おまんこ  
ギチギチに  
されて…

あー



ミナ

イリヤに  
犯されてる  
みたいで

ギ

ブルブル

あー

頭おかし  
くなるぐら…

もうまじいんか…

あー

ブル

ならば  
もう彼女達には



容赦ない  
お仕置きが  
必要である



「お仕置きが  
必要である」

「お仕置きが  
必要である」

「お仕置きが  
必要である」

「お仕置きが  
必要である」









♡♡♡♡♡

ハハハ

ハハハハハハ

T-shirt



ズル

おじさんの怒りと  
獣欲の籠った  
白濁液が美遊さんの  
胎内ではじける

ズルズル



その勢いは  
暴力的な快楽として  
全身をむしばみ

びびり...

はあ  
ズル...

びびり

彼女の人間性を  
剥ぎ取るのだった

びびり

びびり

ズルズル  
びびり